



兵協連だより

HYOGO CONSUMER'S CO-OPERATIVE UNION

2012 **11**



10月9日(火)、兵庫県民会館において「2012年度 兵庫県生協大会」を開催。会員生協の組合員、役職員など316名が
つどいました。(関連記事P.4~5)

事業を通じての社会貢献 と地域包括ケア

姫路医療生協は、この間、総代会方針に3年連続して「地域包括ケアの推進」をスローガンに掲げています。2012年度スローガンは「事業を通じた社会貢献で、地域包括ケアを推進します」としました。

日本の高齢化率は世界一であり、2025年には30%を超え、2050年には40%になると言われています。日本の超高齢社会は世界のトップランナーであり、日本の高齢化対応は世界の国々から注目されています。長寿社会の到来は、本来は日本国民にとって喜ばしいことであるはずですが、現状は、多くの国民が現在と未来に對して大きな不安を抱えています。今、生協には、この超高齢社会に對して何ができるのか、どう貢献

できるのか、するべく問われているのではないかと思えます。

地域包括ケアを推進するために、中学校区を目安とした地域の中で、「住まい」を基本に「医療」「介護」「予防」「生活支援」といったサービスを切れ目なくトータルに提供できるシステムづくりが必要です。介護が必要になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまちづくりが求められています。

「地域包括ケア」という言葉は、姫路市内では、行政をはじめ、地域包括支援センター、各介護事業所、また医師会も含めて、関係する団体の中では今や「共通言語」となっています。一方、地域における人口構成や社会資源、文化や風土などは、様々な違いがあり、

CONTENTS

- | | |
|--------------------------------------|---|
| 2. 想点 | 9. 単協通信 姫路医療生活協同組合／
神戸市民生活協同組合 |
| 4. 2012年度 兵庫県生協大会 報告 | 10. 協同組合のかけ橋 |
| 6. 第3回 理事会 報告／
フェニックス共済のお知らせ | 11. 兵庫県のページ |
| 7. 単協通信 生活協同組合コープこうべ／
佐曾利消費生活協同組合 | 12. ひょうご消費者ネット シンポジウムのご案内／
県連日誌／編集後記 |
| 8. 単協通信 尼崎医療生活協同組合／
ろっこう医療生活協同組合 | |



姫路医療生活協同組合 専務理事

黒岩 勝博

(くろいわ・かつひろ)

「このようにやれば地域包括ケアは必ずうまくいく」といった地域包括ケアのモデルはありません。私たちは実践の中で、地域包括ケア」という言葉の価値を創造していく必要があるのだと思います。

当生協では、〃人と人との支え合いですこやかに生きる〃を基本理念として、3つの医療機関（56床の在宅療養支援病院と医科診療所、歯科診療所）と35の介護事業所を運営し、「在宅サービス」に特化し、医療をバックに訪問系・通所系・地域密着型サービスに力を入れています。2012年度は、福祉介護センター「おおつ」(小規模多機能ホームとデイサービスの併設事業所)と「てがら」(小規模多機能ホームとデイサービス、訪問看護、訪問介護の併設事業所)の2つのセンターを開設しました。2013年度は、7月に福祉介護センターめが(小規模多機能ホームとグループホームの併設事業所)を開設する予定です。

ほぼ毎年、地域の組合員と職員が協同して、地域総訪問行動や事業所見学会、新規事業所説明会など、福祉介護センター建設運動をすすめています。

特に、当生協は小規模多機能ホームを現在、姫路市内に6事業所運営しており、介護度が中重度であり認知症の方を中心に受け入れています。隔月で開催している小規模多機能ホームの運営推進会議では、地元の自治会長をはじめ、民生委員、老人会長、利用者家族、地域包括支援センター職員など、多彩な顔ぶれの方々に集まっていただき、地域の課題やまちづくりについて意見交換をおこなっています。

生協組合員は地域の中で、まちかど健康チェックやサークル・レクレーション活動、棒体操などの介護予防等、様々な健康づくりを主体的にとりくんでいます。また、認知症サポーターや組合員間の有償ボランティアである「くらしの

助け合いの会はなちゃん」などで助け合い活動をすすめています。私たちは、「認知症になっても安心して徘徊できるまちづくり」を目標に地域の介護力・保健力のアップをはかっています。

〃事業を通じての社会貢献〃は、4つの視点を重視しています。それは、①2025年の超高齢社会に備えた着実な対応、②私たちの介護・医療サービス、③地域における雇用創出(当生協の職員数は現在700名)、④剰余をつくって税金を納めることです。

当生協は、「すべての活動を地域包括ケアにつなげよう」を合言葉に、事業所と組合員が連携して、24時間・365日の安心サービス提供と顔の見えるネットワークづくりをひろげています。組合員にとつては、生協の活動で学び経験したことを力にして、身近なことから1つ1つ実践に移していくことが、私たちがめざす地域包括ケアの第一歩につながります。

2012年度 兵庫県生協大会を開催

テーマ 協同が息づく兵庫のまちづくり 協同組合がよりよい社会を築きます

10月9日(火)、兵庫県民会館において、2012年度兵庫県生協大会を開催し、会員生協の組合員、役職員など316名がつどいました。



毎年10月は「生協強化月間」です。全国の生協で「活動や事業について知っていたら、生協の輪を広げるための催し」が行われます。

第一部・記念式典は、生活協同組合コープ自然派兵庫 理事長 山口 邦子さんの司会で始まりました。まず、主催者を代表して兵庫県生協連 本田英一 会長理事が、「国連は2012年を国際協同組合同年と決めました。11月には、国際協同組合同盟アジア・太平洋地域総会が、日本で初めて、協同組合運動の父である賀川豊彦ゆかりの地である神戸で開催されます。災害復興の柱のひとつに「地域コミュニティの再生」がありますが、コミュニティは人と人の絆づくりを担う協同組合の重要な役割。海外の仲間とともに協同組合の役割について認識を深め、協同の輪を広げながら生協運動を力強くすすめます」と挨拶しました。



井戸敏三 兵庫県知事



神戸市 中塚弘明 部長



兵庫県議会 藤原昭一 議長

三様より「生活協同組合は、オールフォーワン・ワンフォーオール」の精神に基づいて運営されています。今こそ、原点に立ち返ることが必要です。国民の生活を守り、そして前進させるといふ協同組合の大きな役割を果たし、兵庫の協同組合活動が活発に展開されることを祈念いたします」とご挨拶をいただき、最後に「県民の生活支えて協同し組織力合わせて守り進める」という和歌で協同組合へのエールを送られました。その後、神戸市市民参画推進局市民生活部 部長 中塚弘明様、兵庫県議会議長 藤原昭一様より、それぞれ生協への期待をこめられたご祝辞をいただきました。

その後おこなわれた表彰式では、永年、生協の発展に寄与された2人の会員生協役員に生協功労者表彰として「兵庫県知事感謝」が井戸知事様より贈られました。また、生協業務に精励した30名の役員に本田会長理事より「兵庫県生活協同組合連合会会長表彰」が贈られ、会場の参加者は大きな拍手で祝いました。

第二部は、「一緒に考える、これからの環境、エネルギーのあり方と生協の役割」と題して、日本生協連 政策企画部長 小熊竹彦氏による講演がおこなわれました。

「組合員（国民）による「原子力発電に対するイメージ」アンケート結果では、廃棄物処理や放射性物質による汚染、安全対策への不十分さが指摘されています。

エネルギー政策の3つの基本視点である「安定供給の確保」「環境への適合」「市場原理の活用」に加え、徹底した情報公開とリスクコミュニケーションを図っていく





2012国際協同組合年 紹介パネルの展示



東北地方の特産物の販売



医療生協による健康チェック

めの「安全確保」と、国民がエネルギー問題の取り組みに主体的に参加していく「国民の参加」の5つの基本視点が重要です。また、今後のエネルギー政策として、原子力発電への依存を段階的に低減する「原子力に頼らないエネルギー政策への転換」や「省エネルギー（節電）」による使用電力量の大幅削減、太陽光発電・風力発電・バイオマス発電・地熱発電などの「再生可能エネルギーの急速拡大」、石炭火力から「天然ガス火力発電へのシフト」、それぞれの地域にあった地産地消な電源によるエネルギーミックスと分散型供給システムを基本とした「電力・原子力に関わる制度改革と次世代送電網（スマートグリッド）の構築」の5つが重点課題です。国民の意識が大きく変化しているなかで、原子力に頼らない、

新しいエネルギー政策とその実現のため、生協らしい取り組みをすすめるながら、社会的発言をしていくことが求められています」とご講演いただきました。

講演終了後は、会員生協による「健康チェック」や「東北地方の特産物」、「コープの菓子パン」の販売、「公財」兵庫健康財団の取り組み紹介、「2012国際協同組合年 紹介パネル展示」などをおこない、多くの参加者でにぎわいました。



司会をされる 山口理事長



講演をされる 日生協
小熊竹彦 部長

■生協功労者・兵庫県知事感謝

(順不同・敬称略)

所属生協	氏名
宝塚医療生活協同組合	岡本 芳章
生活協同組合連合会大学生協 阪神事業連合	寺尾 善喜

2012年度
兵庫県生協大会 表彰

■生協功労者・兵庫県生活協同組合連合会会長表彰 被表彰者

(順不同・敬称略)

所属生協	氏名
生活協同組合コープこうべ	木付 昭次
生活協同組合コープこうべ	石垣 栄次
生活協同組合コープこうべ	瀬戸 久次
生活協同組合コープこうべ	野間 誠
生活協同組合コープこうべ	松岡 秀明
生活協同組合コープこうべ	田伏 貴行
生活協同組合コープこうべ	後長 寛
生活協同組合コープこうべ	田中 伸二
生活協同組合コープこうべ	簗戸 康正
生活協同組合コープこうべ	大島 邦弘
生活協同組合コープこうべ	小林 祐
生活協同組合コープこうべ	藤田 運
生活協同組合コープこうべ	三田 雅人
生活協同組合コープこうべ	阪本 洋幸
生活協同組合コープこうべ	扇野 勝美

所属生協	氏名
関西学院大学生生活協同組合	舟津 守弘
神戸医療生活協同組合	藤原 精吾
神戸医療生活協同組合	久岡 志津
神戸医療生活協同組合	中村 泰
尼崎医療生活協同組合	山本千穂子
尼崎医療生活協同組合	徳間 達哉
尼崎医療生活協同組合	藤川 博司
尼崎医療生活協同組合	瀬井 歩
尼崎医療生活協同組合	伊藤 百合子
宝塚医療生活協同組合	川端 穰
姫路医療生活協同組合	平島 善郎
姫路医療生活協同組合	野村 千恵子
ひまわり医療生活協同組合	早川 一男
神戸市民生活協同組合	藤原 恵子
兵庫労働共済生活協同組合	尾野 いづみ



兵庫県知事感謝



兵庫県生協連 会長表彰



兵庫県生協連 会長表彰

2012年度 兵庫県生協連 第3回理事会報告

【開催日時】 2012年10月1日(月) 午後1時57分～3時37分

【開催会場】 兵庫県民会館 12階「1201」

【出席者】 寺尾副会長理事、三宅専務理事、板崎、高橋、福島、新保、伴、小野田、酒井、桑村、若山（以上、理事）、藤田、金丸、秦（以上、監事）

報告事項

- (1) 2012年度生協功労者表彰「知事感謝表彰被表彰者」について
- (2) ICA・AP地域総会への兵庫JCCの参加と協力について
- (3) 生協大会（10/9）タイムスケジュール及び参加者動員状況について
- (4) 「会員生協の概況報告」について、各出席理事・監事より報告
- (5) 前回理事会～10月上旬までの兵協連行事、活動報告
 - ① ピースアクション「広島被爆ピアノ平和コンサート」(8/10)
 - ② 災害対策委員会 (8/23)
 - ③ 近畿地区生協・行政合同会議 (8/31)
 - ④ 兵庫JCC幹事会 (9/3)
 - ⑤ 生活問題研究会 (9/5)
 - ⑥ ロバート・シルジェン氏講演会 (9/8)
 - ⑦ 生協活動委員会 (9/13)
 - ⑧ 2012年度 関西地連第2回運営委員会報告
 - ⑨ 2012年度 第2回県連活動会議報告
- (6) 兵協連 第2回生協対策資金貸付審査会 開催報告
- (7) 12月理事会後の兵庫県との懇談会について
- (8) 新春トップセミナー講演会について



自然災害から「住まい」「家財」を守る

フェニックス共済

兵庫県住宅再建共済制度（フェニックス共済）は、災害発生時に被災した住宅の再建のために住宅所有者が相互に支え合う「住宅再建共済制度」と、早期の生活再建を目指して県民がお互いに助け合う「家財再建共済制度」とにより、自然災害への「備え」を充実させています。

確かな住まいの安心を手に入れませんか。

フェニックスサポーター はばタン



共助に感謝キャンペーン実施中!!

フェニックス共済を応援する県内の企業や各種団体にご協力いただき、「共助」の輪を広げる「共助に感謝キャンペーン」として、県立施設の各種割引や県特産品の抽選によるプレゼント、苗木や花の種プレゼントを実施しています。キャンペーンの詳細は下記までお問い合わせください。

住宅をお持ちの方の

住宅再建共済制度



年額5,000円で
最大600万円の給付!



住宅にお住まいの方の

家財再建共済制度

年額1,500円で
最大50万円の給付!

賃貸、借家にお住まいの方も入れます!

複数年一括支払加入（3・5・10年）による割引や住宅と家財の同時加入による割引があります。

お問い合わせ

(公財)兵庫県住宅再建共済基金 TEL 078-362-9400 (平日9:00~17:00)

<http://web.pref.hyogo.jp/wd34/phoenixkyosai.html>

フェニックス共済

検索

生活協同組合コープこうべ

プログラムを見直し

見て・聞いて・話す会議に

10月17日(水)の大阪北地区から25日(木)の第5地区まで、2012年度の秋の地区別総代会議を順次開催しました。今回から、総代同士、総代と常勤役員の見解交換をより活発に行えるように、内容を大幅に変えました。

まず、櫻井啓吉理事長が「国際協同組合年の今年は、まさに生協の出番。長年築いてきた信頼と地域密着という強みを生かし、より一層生協らしい質の良いサービスを提供していかねばなりません」とあいさつ。続いて本田英一組合長理事が上半期の事業と活動について報告しました。今回、新たな試みとして、総代同士の意見交換の時間を設け、今まで以上に報告内容への理解を深めていた



代同士の意見交換の時間を設け、今まで以上に報告内容への理解を深めていた



きました。

昼食は、夕食サポート「まいくる」のお弁当。競争の厳しい配達弁当の業態でもあり、内容に関心のある総代に大変好評でした。

午後は、生産事業の活性化に向け、自己生産を通して築いてきた商品づくりの価値と現状について報告しました。新しく制作した生産工場の紹介DVDを上映し、試食。買い支えをお願いしました。

(通信員 榊原晶子)

佐曾利消費生活協同組合

組合員の手による改装工事

元気な村づくりの拠点として

佐曾利消費生活協同組合は地域の組合員に支えられ、今年51年目を迎えました。9月には、店内の一部を組合員自らの協力によって改装工事を行い、リニューアルオープンしました。田んぼのあぜ道でしゃべる、道ばたでしゃべる、せまい村なのになかなか出会いが少なく、「村の中にいつでも腰を下ろしてゆっくりできる場が欲しいなあ」という思いから、これまでの売店の半分をつどい

の場である休憩所に変え、組合員さん同士がゆっくりお話いただけるようにしました。木の温もりのある机と椅子、そして絵本なども置いて、子どもたちの「おたのしみ広場」もあります。また、大人も子どもも楽しめる「駄菓子コーナー」も始めました。小錢をぎゅつと握り



くつろげる休憩所



明るい日差しが差し込む店内



しめて買いに走ったり、足し算をしながらおやつを選ぶワクワク感を、懐かしい思い出とともに楽しみたいだければと思います。

10月20日(土)21日(日)には、併設する園芸組合の毎年恒例「ダリアまつり」を開催。上佐曾利地区は、全国でも有数のダリアの生産地として知られています。数百品種が揃うダリアの見頃に、今年も2日間で約500人が訪れ秋のひとときを楽しみました。51年目の「今」から「明日」へ。これからも、元気な村づくりの中心施設として、組合員みなさんと一緒にがんばっていきたくと思っています。

(通信員 後北信子)

尼崎医療生活協同組合

被災地での一ヶ月常駐活動をふり返って

8月末「みやぎ虹の架け橋復興支援センター」が宮城県柴田町に開設され、最初のコーディネートとして、9月末まで現地で活動しました。何にどう手を付けていいか見当がつかず、大きな不安に包まれたままの着任でした。しかし、現地のみやぎ県南医療生協の方々が、いまの状況を詳しく説明して下さるとともに、滞在の間、生活のあらゆる面で本当によくして頂きました。そういう支えがあったからこそ頑張れたと思います。



仮設住宅で健康体操

現地の活動では、一番の目標として、他団体や、組合員の訪問に力を入れて取り組みました。「宮城に常駐して頑張ります」と話をすると、どこでも大歓迎をしてくださいました。医療生協は山元町でしばしば炊き出し

の活動を行っているのですが、みやぎ生協さんが物資の提供を約束してくださるなど、同じ生協として協同の取り組みができたことは、非常に心強いものでした。



山元町「工房地球村」にて

いま強く感じているのは、一つは、小・中学生など子どもへの支援の必要性です。来年高考受験を控える中学生、放課後行き場所のない仮設の子どもたちへの支援は急務です。また、引越し手伝いははじめ、家財の片づけなどのニーズもますます強まることを実感しました。要求は切実であるにもかかわらず、地域ごとにその中身は複雑に異なり、それらを的確につかんだ支援活動が必要で、今後、生協の仲間のみならず、そして全国のかたがたと力を合わせ、力いっぱい支援活動を続けていきたいと思っています。

(通信員 山口 寛)

ろっこう医療生活協同組合

東日本大震災支援

第2回健康状態調査を実施

～岩手県大船渡市～

ろっこう医療生協が支援を続けている岩手県大船渡市では「経済状況、生活環境やコミュニケーションの変化、精神的ストレスに加え、生活再建への差が顕在化してきている」ことから、10月いっぱい、現地にスタッフを派遣し、第2回目の健康状態調査を実施し、今後の保健施策への活用を図ることにしました。

仮設訪問や自宅改修した方の訪問などを行いました。自宅を再建し仕事も立て直したが高血圧になったという方、「津波を見たショックで耳が聞こえなくなった。イライラや不安感が続く」「親の介護もあつてうつのような状態。何軒もの近所の家を見て悲しい。知り合いの方が住んでいた土地に、復興への道のりとは言葉え仮設店舗ができていくのも複雑な気持ち」という方もおられ、やはり心身に大きな影響があったのだと実感しました。

私たちとお話ししているうちに



「少し気持ちが落ち着いてきました」という声もあり、今後も継続的な支援活動に取り組みでいきたいと思っています。

(通信員 古市賢二)

姫路医療生活協同組合

さあ、秋だ、スタートだ！

「生協強化月間スタート企画&第15回介護医療フォーラム」

9月15日(土)午後、あいめつせホールで、『2012国際協同組合年秋の生協強化月間&第15回介護医療フォーラム』を開催しました。組合員・職員そして、近隣の地域包括支援センターや介護事業所の方々の参加で、会場は満員の300人。第1部は、今年度の秋の生協強化月間をどうとりくむか、月間推進委員長でもある福居副理事長が、2012年度の新事業の展開で、小規模多機能ホームとグループホームを併設した福祉介護センターの建設が姫路市



に認可されたことを報告し、今年も事業所建設運動とともに月間をとりくむことを提案しました。また、2012年度姫路医療生協ニュースコンクルールの審査発表と表彰も行われました。

第2部の第15回介護医療フォーラムでは、昨年引き続き、姫路獨協大学客員教授の横井賀津志先生の記念講演で「脳と身体を保つ10の秘訣」と題してお話いただきました。認知症予防、介護予防に具体的につながる講演内容に、会場は聴き入りしました。



アンケートでは、これからの超高齢社会に対応する、「地域包括ケアシステムづくりをみんなで考え、地域にネットワークを広げる重要性がわかりました」「介護予防、認知症予防は年とつてからは遅すぎるな」など参加者の感想が寄せられました。

(通信員 岡田佐織)

神戸市民生活協同組合

「ハッピーパック全員集合」で

事業を紹介

10月13日(土)、神戸総合運動公園内にて、「ハッピーパック全員集合inグリーンフェスタこうべ」が開催されました。こちらは神戸市勤労者福祉共済の主催の催しと、神戸



PR活動に励む生協職員

市及び(財)神戸市公園緑化協会の主催の催しが合同で行われるもので、秋にあわせて神戸市民生協では毎回参加しております。

今年は秋晴れでさわやかな陽気だったこともあり、花と緑に包まれた会場は多くの家族連れの方でにぎわいました。今回も医療共済・火災共済・交通災害共済・こども共済の各種パンフレットの配布やパネル展示をさせていただき、同時に会場を訪れる家族向けのイベントの「アメのすくいどり」を行うなど、積極的な広報活動を行いました。

イベントブースを訪れた方からは、「神戸市民生協に加入していますよ」「またこういった催しを続けてほしい」といったお声を多くいただきました。事業所外での広報活動に限られているだけに、こういった機会を通じて、もっと多くの方々に神戸市民生協をPRしていきたいと思われました。

(通信員 鹿田裕子)

協同組合のかけ橋

JF 摂津播磨地区漁協青壮年部連合会

今年も開催！「漁師さんのおさかな教室」 ～高砂市立米田西保育園にて開催～

“魚をもっと食べてもらおう”と始まった摂津播磨地区漁協青壮年部連合会（大角生馬会長）の「おさかな教室」。今年が高砂市の米田西保育園に、園児の親子約40組（約90名）が参加し開催されました。

9月21日（金）の教室は漁青連のメンバー、県・系統団体の職員がスタッフに加わり、料理の下ごしらえやタッチプールの準備を進めた後、園児たちが会場に入ってきました。食育参観として開催されたこの日の教室は、今までになく大人数なため、半分は調理、半分はタッチプールと2班に分かれ始められました。お魚ハンバーグ作りではスタッフの見本に続いて、親子一緒になって挑戦しました。初めて包丁を触る子どもも多くいたようで、初めは緊張した面持ちで包丁を持った園児たちでしたが、アジの身を切り始めると、みんなお母さんと一緒に嬉しそうに作っていました。

一方、タッチプールの子どもたちは、タコ・タイ・サメなど知っている魚だけでなく、エイ・カワハギ・アコウなど見慣れない魚が用意されたプールに興味津々。最初は怖がっていた子どももいましたが、いろいろな魚に触っているうちにだんだん歓声が大きくなり、最後には次々に手づかみをして楽しんでいました。

昼食には調理したお魚ハンバーグと、スタッフが用意したタコ飯とガザミの味噌汁も一緒に親子で試食しました。おかわりする子どももやさしくガザミを食べる子どももいてとても好評でした。また、子供たちから魚に関する質問があり「アジを獲るコツは何ですか」や「タコはどうやって釣るのですか」といったものや、保護者から「上手に魚を焼くコツは？」、「三枚おろしのコツは？」といった質問も飛び出し、スタッフが回答していました。最後に同園の北野実千代園長から「命を頂くということに理解が深まったと思います」と挨拶があり終了しました。

今回は今までにない大人数の教室となり、関係者は少し心配していましたが、無事、終了することが出来ました。今後も様々な地域で取り組みを続けていきます。



たくさんの親子が参加しました



飛び上がってきたサカタザメにみんなビックリ！



包丁の使い方を指導する大角会長

JA グループ兵庫

稲刈り体験で消費者と交流

JA丹波ひかみは、9月15日に阪神間から消費者を招待し、稲刈り体験交流を行いました。このイベントは食農教育活動の一環として、稲作体験を通じ安全・安心な米づくりの大切さを消費者に伝えるとともに、消費者と産地との交流を深めようと毎年実施しており今回で8回目。当日は、同JAの特別栽培米「夢たんば」の販売などを行っている（株）トーホーの消費者34人が家族連れなどで参加しました。

5月に田植え体験をした参加者は、立派に実った稲穂を見て、喜びの表情を浮かべていました。その後、JAの営農相談員やほ場主の芦田岩男さんから、鎌での刈り取りを教わり、稲刈りを体験。鎌を使い慣れていない子供たちは、株をなかなか刈り取れない光景も見られましたが、「鎌でざくっという感覚が気持ちいい」と笑顔でした。

稲刈り後は、市内のキャンプ施設でバーベキューを楽しみながら、JA職員やスーパー担当者との交流しました。JA丹波ひかみでは「これからも交流を通じて、消費者の皆さんに安全・安心な米づくりへの理解と、産地への愛着を一層深めていただけるとうれしい」としています。



稲刈りを楽しむ参加者



農家から鎌の使い方を教わる参加者



最近の消費生活相談事例

水回り工事をめぐるトラブル

事例

トイレが詰まったので、ポストに投げ込まれていたチラシの事業者に、電話で修理を依頼した。「ポンプ洗浄でも詰まりが解消されなかったため、便器の交換が必要」との説明を受け、言われるがままに交換工事をお願いした。交換費用は15万円と言っていたが、請求書には20万円と記載されているなど、工事後の対応に不信感を抱いている。そもそも便器の交換は必要だったのだろうか。

【アドバイス】

台所やお風呂での水漏れ、トイレの詰まりなどで、慌てて身近にあったチラシの修理業者を呼んだところ、高額な工事代金を請求されてしまったという相談が寄せられています。

悪質な事業者は、消費者の焦りにつけこんで、便器や給排水管の交換工事など、本来に必要なのか疑わしい工事を行ったり、見積もりも示さず勝手に工事をしたりして、法外な工事代金を請求してきます。

訪問販売の場合は、特定商取引法のクーリング・オフ制度があり、契約書面を受け取った日から8日間は、工事が終わった後でも無条件で契約を解除し、支払った代金の返金を請求できます。しかし、水周りの工事については、多くの場合、消費者から事業者にかけて修理を依頼することが多く、依頼の範囲内での作業を行った場合は、原則として、クーリング・オフの対象になりません。

ただし、消費者から事業者に依頼したケースでも、依頼した範囲外の工事については、クーリング・オフの対象となります。今回の事例に当てはめると、相談者は「詰まりの解消」を依頼しただけで、「便器の交換工事」については依頼の範囲外であり、訪問販売に該当するため、クーリング・オフができると考えられます。事業者にその旨を指摘したところ、「便器の交換工事」についてはクーリング・オフをし、「詰まりの解消工事」費用については支払うことになりました。

水漏れが止まらない場合、慌てずに止水栓か水道の元栓を閉め、冷静になってから事業者修理を依頼しましょう。修理業者が来たら、作業に入る前に見積もりの提出を求め、修理内容と料金を確認しましょう。チラシなどに記載されていた料金よりも高い場合は理由を確認して、納得がいけない場合は、きっぱりと断ることが肝心です。

市町によっては、水道工事事業者の登録制度を設けています。詳しくは、お住まいの市町担当窓口（水道局等）にお問い合わせください。トラブルになってしまった場合は、最寄りの消費生活相談窓口にご相談ください。

（兵庫県生活科学総合センター）

MOVE

第8回 NPO 法人ひょうご消費者ネット シンポジウム 「どうなる？食品表示の一元化」

☆私たち消費者が見極めるために☆



現在の食品表示は食品衛生法、JAS法などで規制され複雑な制度になっています。一方、私たち消費者は、食品を選ぶ時には、食品の容器・包装に記載されている表示を見たり、POPや広告を見て買うかどうかを決めています。つまり、食品の表示は消費者にとって、商品の中身を表す唯一の情報であり、誰が見ても分かりやすく、消費者が誤認することのないものであるべきです。

そんな中、食品表示一元化に向け、新法が来年3月までに策定され、来年の通常国会に提出される運びとなりました。そこで、第一部の講演では、食品表示一元化検討委員の一人であった中村幹雄教授をお迎えし、消費者の求める食品表示制度がどこまで確保できるのか？その実態に迫ります。第2部では、行政・事業者・消費者の代表をお迎えして、食品表示の一元化でどう変わるのかを探り、消費者にとって、自主的で合理的な食品の選択ができる新しい食品表示制度の確立を考えます。

- と き：2012年12月1日(土) 13時～16時30分
- と ころ：兵庫県農業共済会館（JR元町駅より徒歩10分）
- 内 容：【第1部】講演

テーマ：「食品表示の課題と表示の一元化について
～食品の安全と安心を選び取るために～」

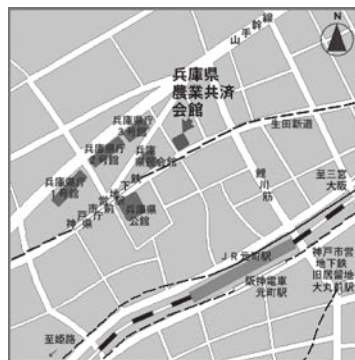
講 師：中村 幹雄氏
鈴鹿医療科学大学薬学部・教授
消費者庁「食品表示一元化検討委員」・委員
NPO法人食品安全グローバルネットワーク事務局長

【第2部】パネルディスカッション

テーマ：「食品表示一元化でどう変わる？
～行政・事業者・消費者それぞれの立場から～」

コーディネーター：酒居 淑子氏（神戸ファッション造形大学・教授）
パネリスト：中村 幹雄氏、渡辺 寛氏（ネスレ日本株式会社・食品法規部 部長）
佐藤八重子氏（NPO法人C・キッズ・ネットワーク）

- 参加費：無料（定員150人。お早めにお申し込みください）
- 締 切：11月25日(日) ※定員になり次第締め切ります
- 申込方法：兵庫県生活協同組合連合会までお電話でお申し込みください（電話：078-391-8634）
- 主 催：ひょうご消費者ネット（H24年度 兵庫県消費者活動担い手づくり事業）
- 後 援：兵庫県・神戸市・兵庫県生活協同組合連合会・生活協同組合コープこうべ



県連日誌

- 11月4日(日) 兵協連 役員体育大会
(野球大会)
- 11月6日(火) 兵協連 第2回医療生協部会
(薬業 鳴尾浜スポーツセンター 野球場)
- 11月7日(水) 兵庫県・兵協連共催 第15回監事
研修会 (県民会館 304)
- 11月8日(木) 兵協連 保健・医療・福祉研究会
研修 福井県民生協見学
- 11月12日(月) 兵協連 第2回大学生協部会
(県民会館 ばら)
- 11月14日(水) 兵協連 第2回共済生協部会
(県民会館 ばら)
- 11月15日(木) 兵協連 第4回生活協同活動委員会
(県民会館 らん)
- 11月17日(土) 兵協連 役員員体育大会
(ボウリング大会)
(神戸ボウリング倶楽部)

編集後記

秋は組合員活動が、いつもよりさらに活発になる季節のように思います。会員生協さんのいくつかの「まつり」に参加させていただきました。佐曾利消費生協さんを訪ね、宝塚の山深い、目に鮮やかな緑をいっぱい浴びて過ごした休日は、あわただしい毎日を通り越す自分自身への「褒美」でした。他の「まつり」会場でも、組合員さんの笑顔があふれ、たくさんのエネルギーを感じました！ ☆さて私も、「もう、十分でしょ？」と言われるかもしれませんが、冬に向けてエネルギーを蓄えることにします。パクパク、モグモグ……♪
(中尾)